

12. 防災対策（ペットの防災含む）

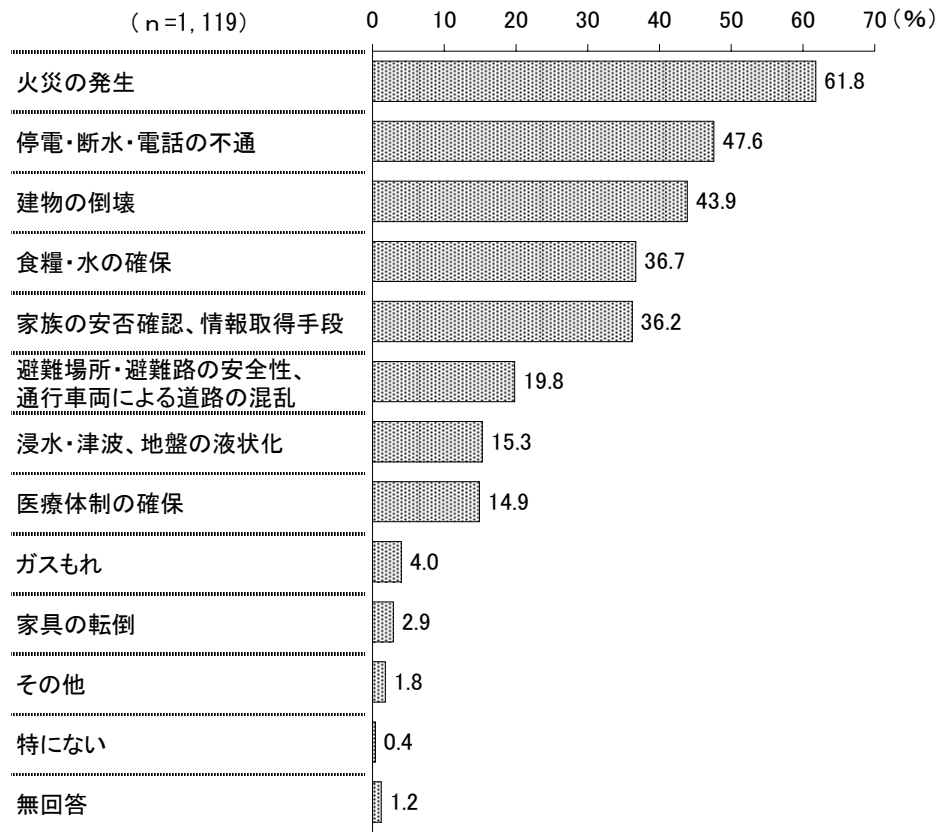
（１）大震災発生時に不安だと思うもの

◇「火災の発生」が6割を超える

問 21 今後、東京に大震災が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものは何ですか。

（○は3つまで）

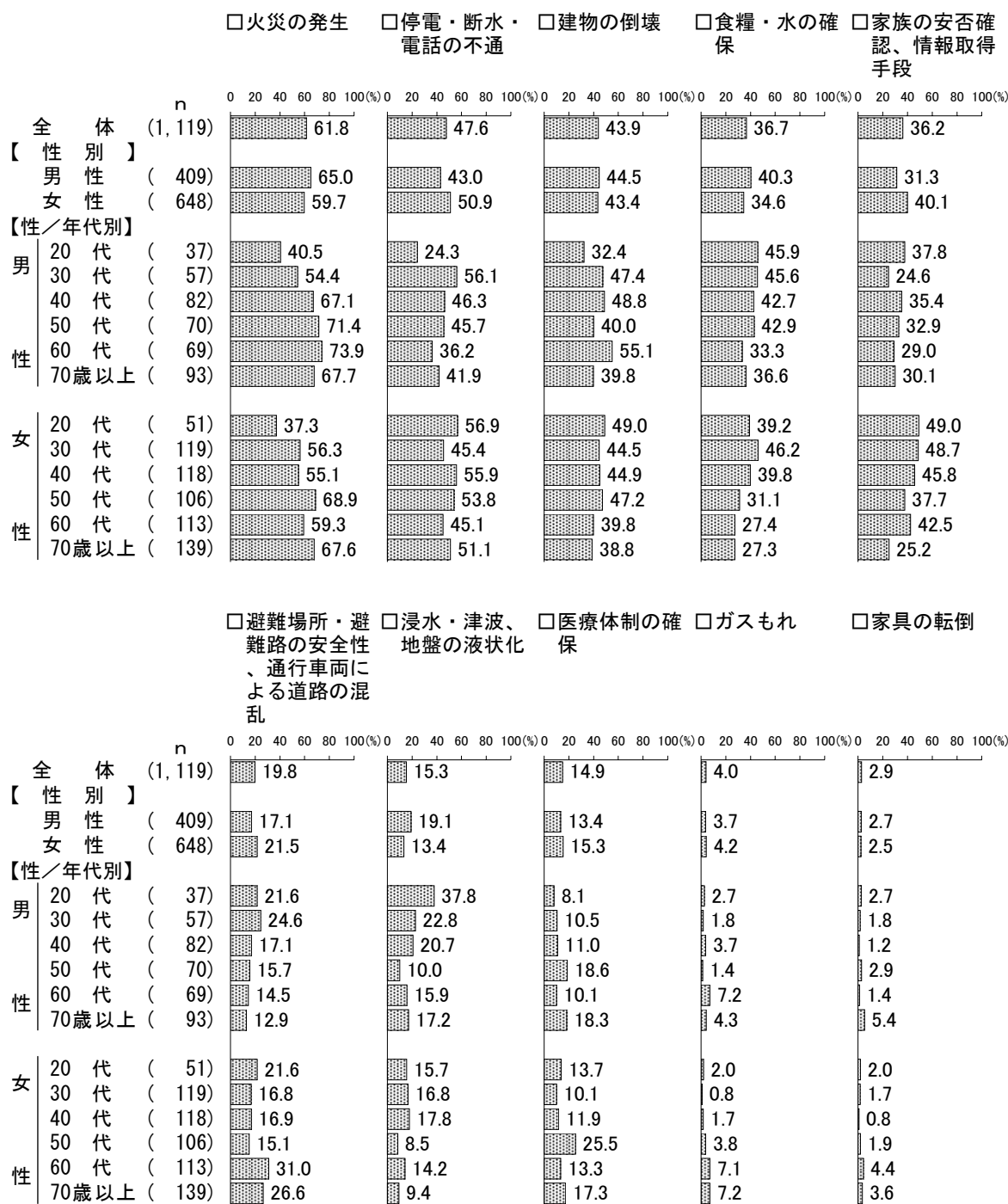
図 12-1-1



東京に大震災が発生した場合、特に不安だと思うものを聞いたところ、「火災の発生」(61.8%)が6割を超え最も高く、次いで「停電・断水・電話の不通」(47.6%)、「建物の倒壊」(43.9%)、「食糧・水の確保」(36.7%)、「家族の安否確認、情報取得手段」(36.2%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「子どもの安全確保」、「ペットの避難場所」などがあげられている。(図 12-1-1)

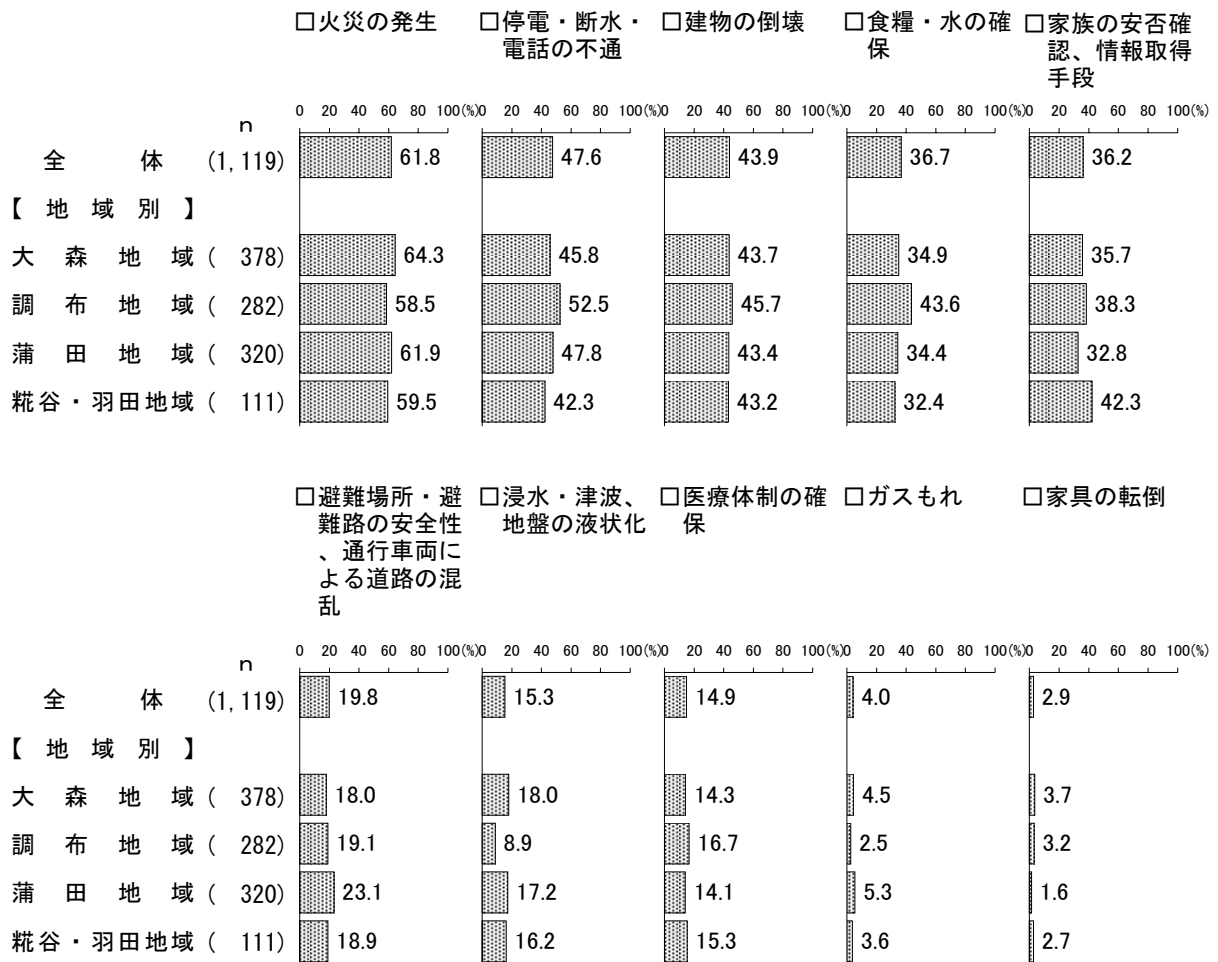
図 12-1-2 大震災発生時に不安だと思うもの－性／年代別



性別でみると、「家族の安否確認、情報取得手段」は女性（40.1%）が男性（31.3%）より8.8ポイント高く、「停電・断水・電話の不通」は女性（50.9%）が男性（43.0%）より7.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「火災の発生」は男性の50代（71.4%）と60代（73.9%）で7割を超え、「停電・断水・電話の不通」は女性の20代（56.9%）で6割近く、「建物の倒壊」は男性60代（55.1%）で5割半ばと高くなっている。（図12-1-2）

図 12-1-3 大震災発生時に不安だと思うもの—地域別



地域別でみると、「火災の発生」は大森地域（64.3%）で6割半ば、「停電・断水・電話の不通」は調布地域（52.5%）で5割を超え高くなっている。また、「食糧・水の確保」は調布地域（43.6%）で4割を超え、「家族の安否確認、情報取得手段」は糀谷・羽田地域（42.3%）で4割を超え高くなっている。（図12-1-3）

(2) 震災対策の実施状況

◇「飲料水の準備」が約6割

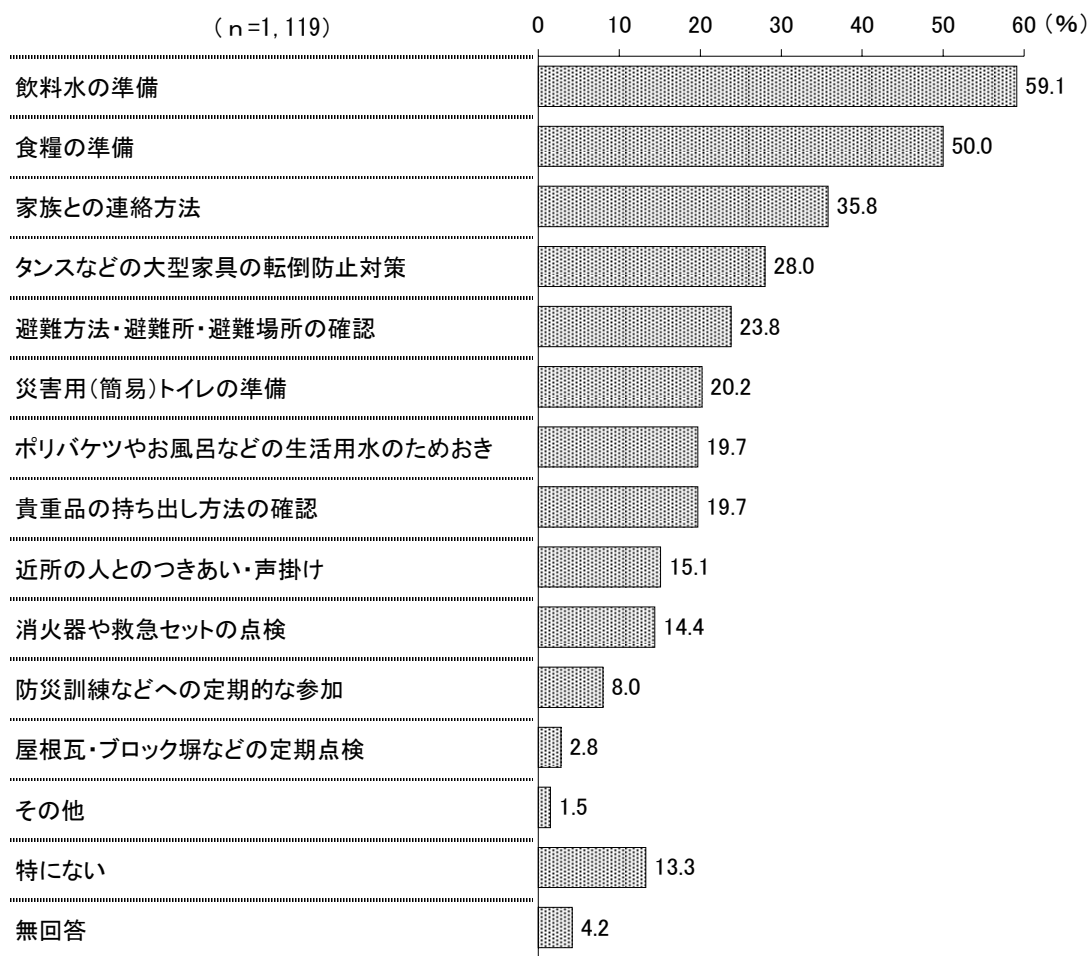
問 22 国の中央会議では、「自助※1」「共助※2」の重要性を踏まえて備蓄を推奨しています。
あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心がけていることは何ですか。

(○はいくつでも)

※1「自助」とは、災害発生直後「自分の命と安全は自分で守ること」が防災の基本であり、自分が怪我をしなければ大切な家族を守ることができるということです。

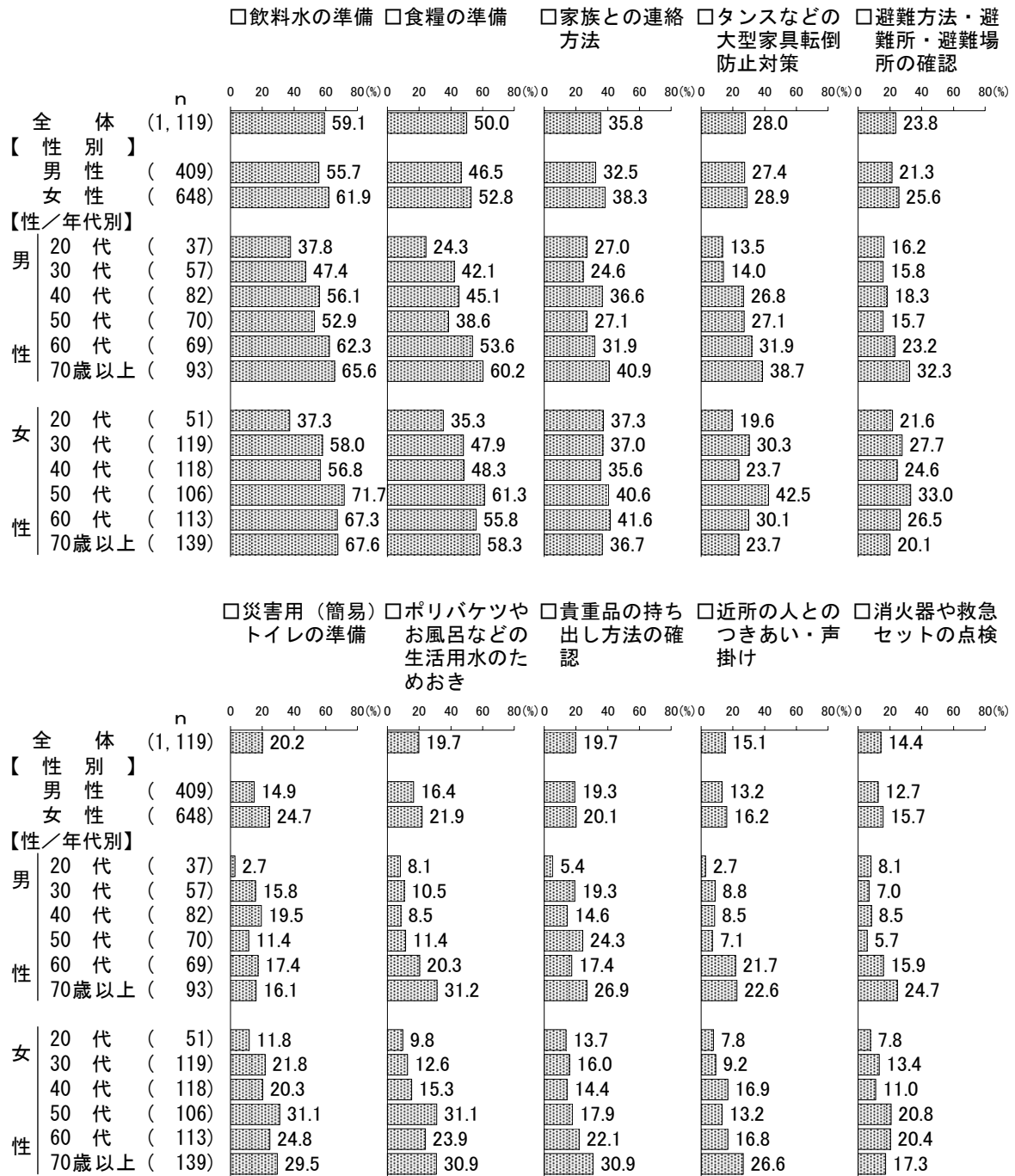
※2「共助」とは、地域を守ることは自分や家族を守ることにつながるため、隣近所の協力や地域で支え合い、助け合うことが大事であるということです。

図 12-2-1



大地震に備えて普段から特に心がけていることを聞いたところ、「飲料水の準備」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「食糧の準備」(50.0%)、「家族との連絡方法」(35.8%)、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」(28.0%)、「避難方法・避難所・避難場所の確認」(23.8%)などの順になっている。(図 12-2-1)

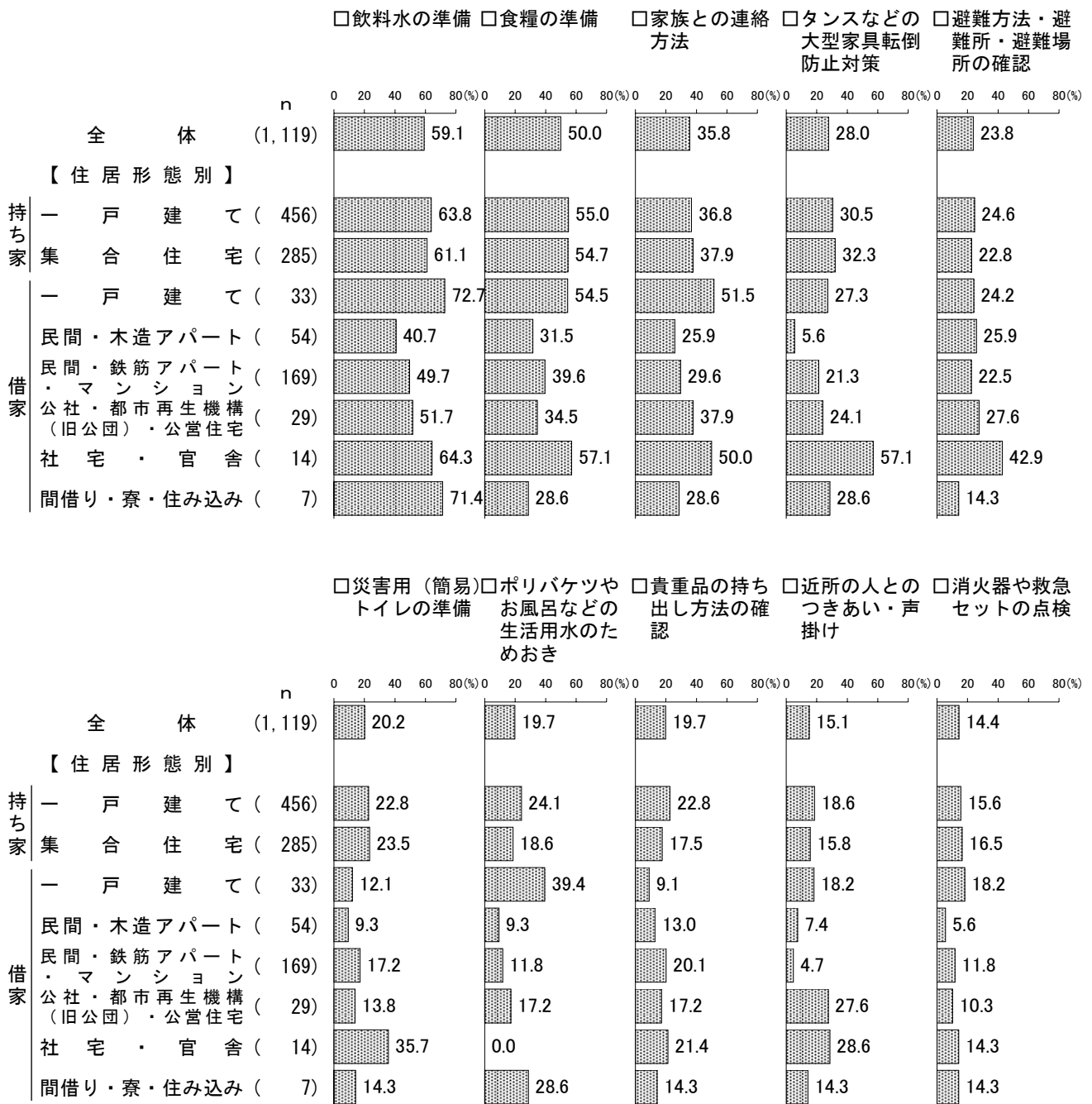
図 12-2-2 震災対策の実施状況－性／年代別（上位 10 項目）



上位10項目を性別で見ると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「災害用（簡易）トイレの準備」は女性（24.7%）が男性（14.9%）より9.8ポイント高く、「食糧の準備」は女性（52.8%）が男性（46.5%）より6.3ポイント高くなっている。

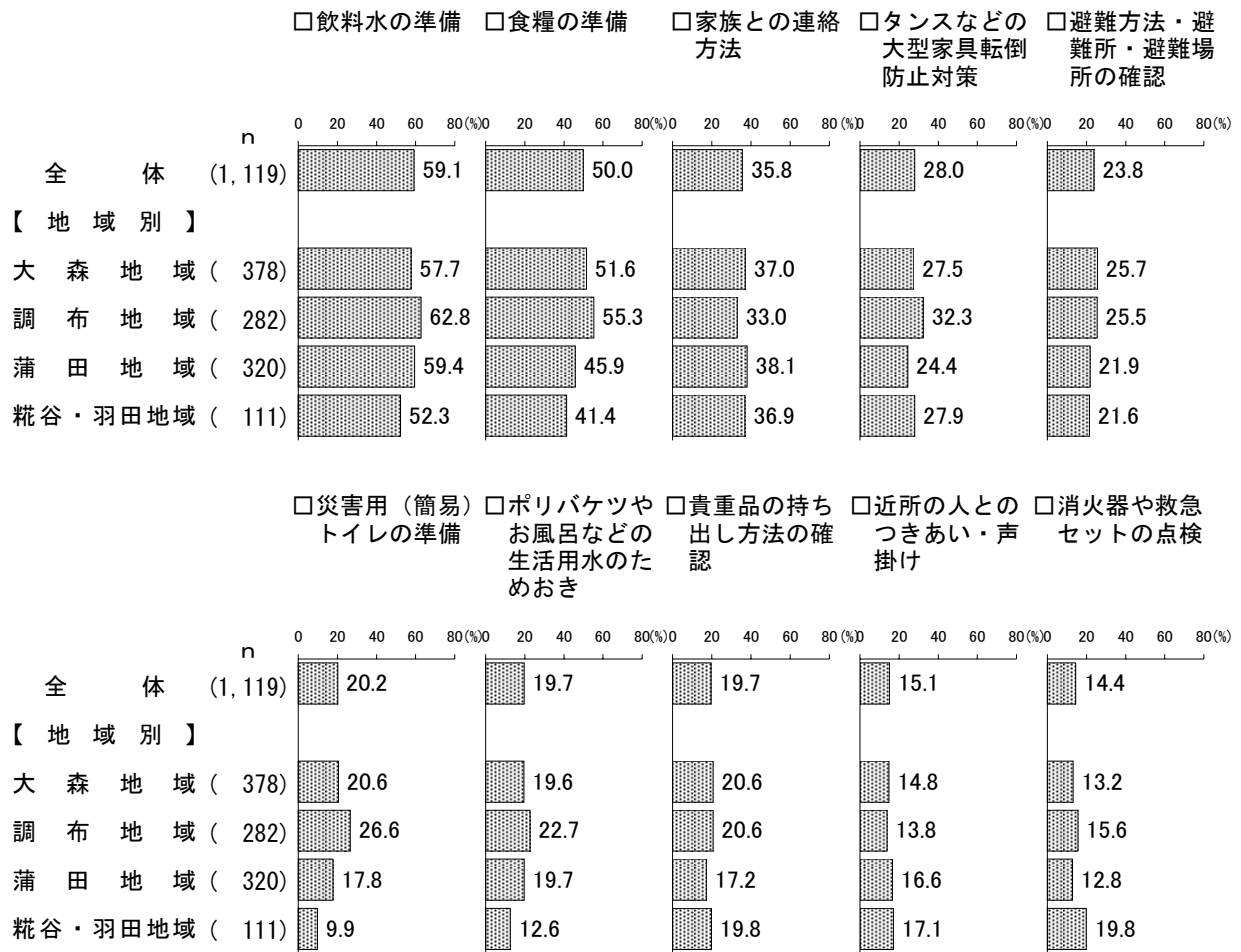
性／年代別で見ると、「飲料水の準備」は女性50代（71.7%）で7割を超え高くなっている。また、「食糧の準備」は女性50代（61.3%）と男性70歳以上（60.2%）で6割台、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」は女性50代（42.5%）で4割を超え高くなっている。（図12-2-2）

図 12-2-3 震災対策の実施状況—住居形態別（上位 10 項目）



上位 10 項目を住居形態別で見ると、「飲料水の準備」は借家／一戸建て（72.7%）で 7 割を超え、「家族との連絡方法」は借家／一戸建て（51.5%）で 5 割を超え高くなっている。（図 12-2-3）

図 12-2-4 震災対策の実施状況—地域別（上位 10 項目）



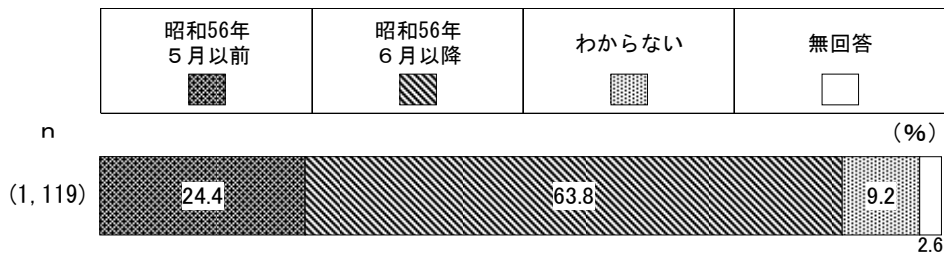
上位10項目を地域別で見ると、「飲料水の準備」は調布地域（62.8%）で6割を超え、「食糧の準備」は調布地域（55.3%）で5割半ばと高くなっている。（図12-2-4）

(3) 住まいの建物が建てられた時期

◇「昭和56年6月以降」が6割を超える

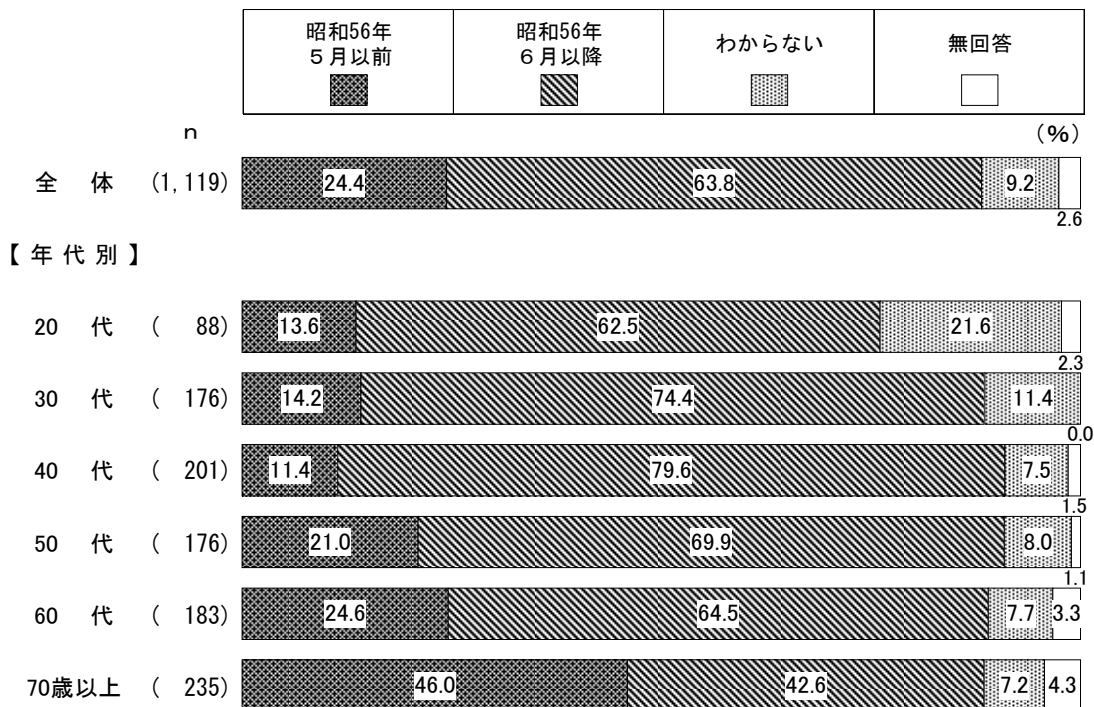
問 23 あなたがお住まいの建物は、いつ建てられたものですか。(○は1つだけ)

図 12-3-1



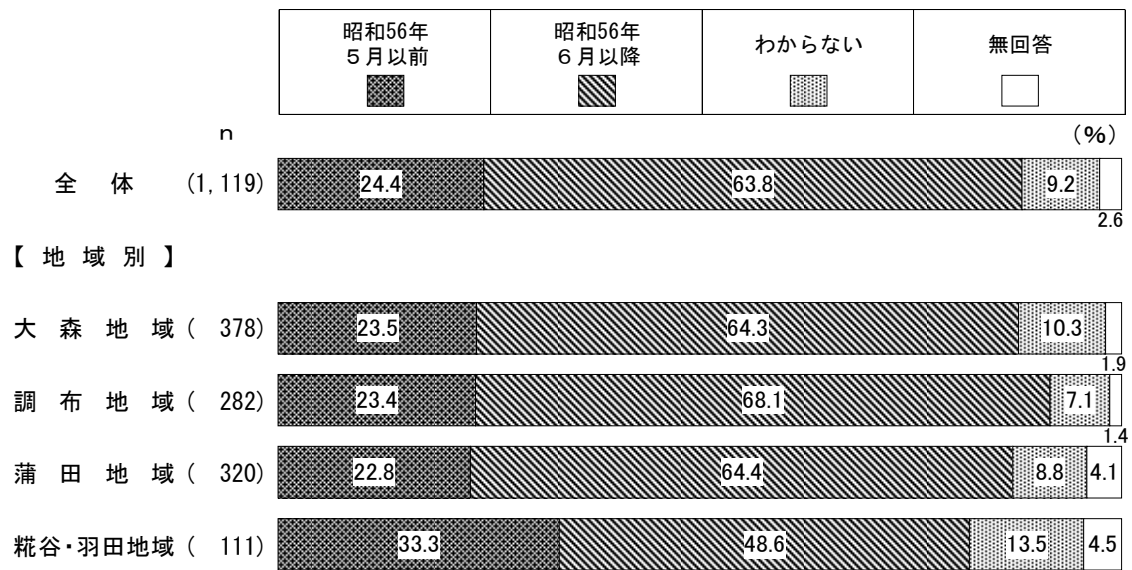
住まいの建物が建てられた時期を聞いたところ、「昭和56年5月以前」(24.4%)は2割半ば、「昭和56年6月以降」(63.8%)が6割を超えている。(図12-3-1)

図 12-3-2 住まいの建物が建てられた時期一年代別



年代別で見ると、「昭和56年5月以前」はおおむね年代が高くなるほど割合が高く、70歳以上(46.0%)で4割半ばと高くなっている。また、「昭和56年6月以降」は40代(79.6%)で8割と高くなっている。(図12-3-2)

図 12-3-3 住まいの建物が建てられた時期—地域別



地域別でみると、「昭和56年5月以前」は糀谷・羽田地域（33.3%）で3割を超え高くなっている。また、「昭和56年6月以降」は調布地域（68.1%）で7割近くと高くなっている。（図12-3-3）

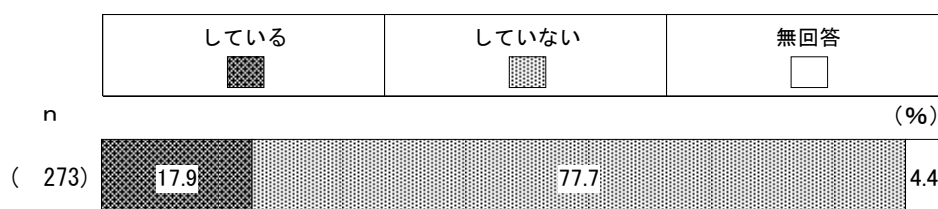
(4) 耐震補強工事の状況

◇「していない」が8割近く

(問 23 で、「昭和 56 年 5 月以前」と回答した方に)

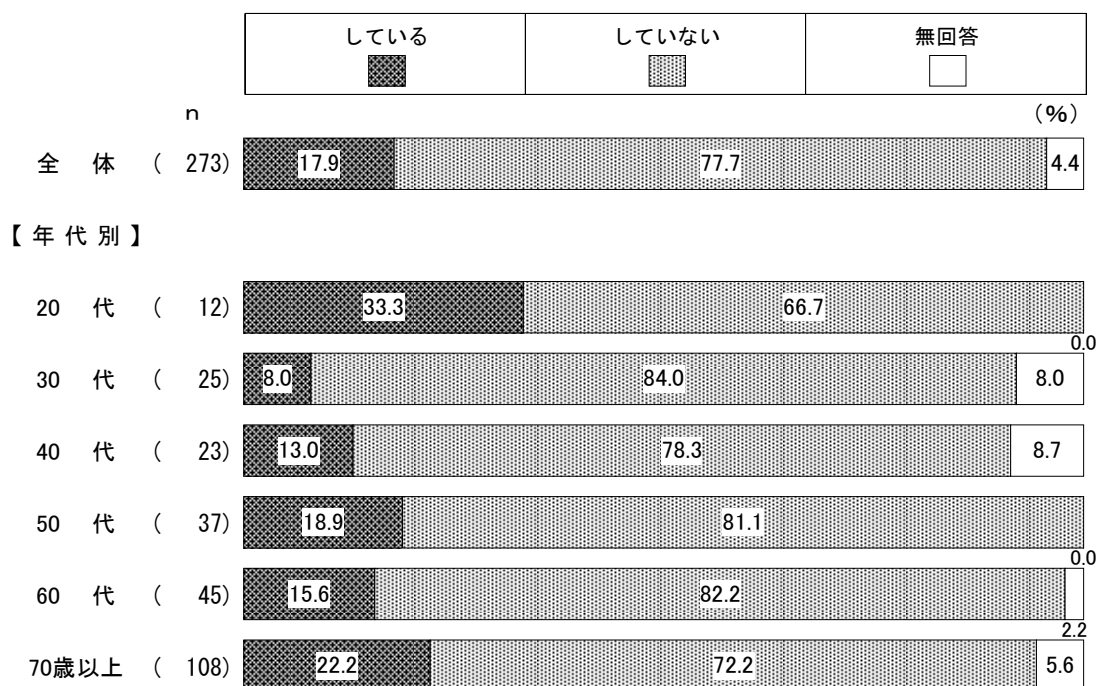
問 23-1 あなたの家庭は、耐震補強工事をしていますか。(○は1つだけ)

図 12-4-1



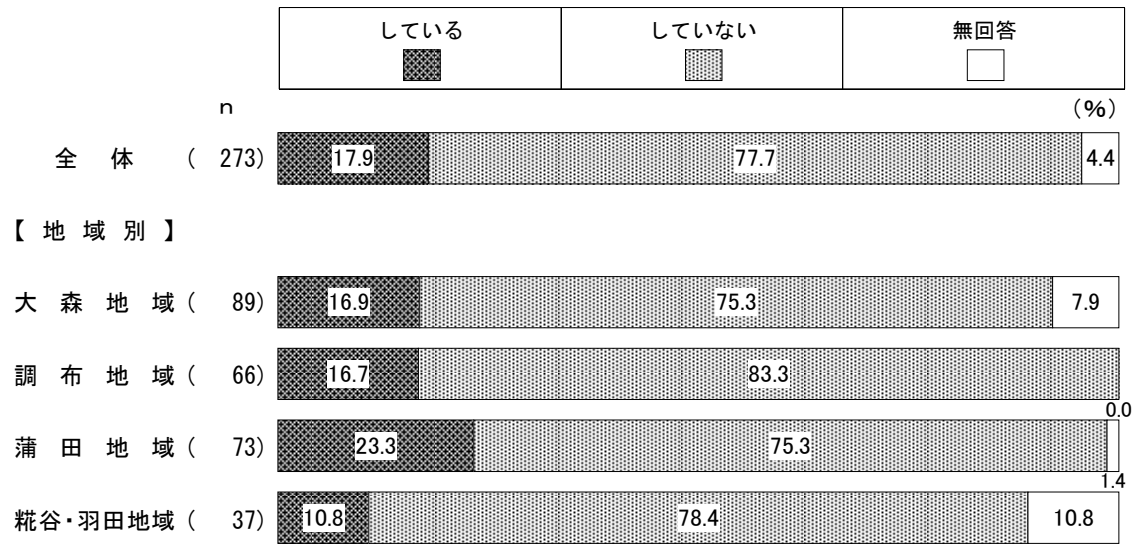
「昭和 56 年 5 月以前」に建てられた建物に住んでいると答えた人 (273 人) に、耐震補強工事を行っているか聞いたところ、「している」(17.9%) は2割近く、「していない」(77.7%) が8割近くとなっている。(図 12-4-1)

図 12-4-2 耐震補強工事の状況—年代別



年代別でみると、「していない」は30代(84.0%)で8割半ばと高くなっている。(図 12-4-2)

図 12-4-3 耐震補強工事の状況—地域別



地域別でみると、「している」は蒲田地域（23.3%）で2割を超え高くなっている。一方、「していない」は調布地域（83.3%）で8割を超え高くなっている。（図12-4-3）

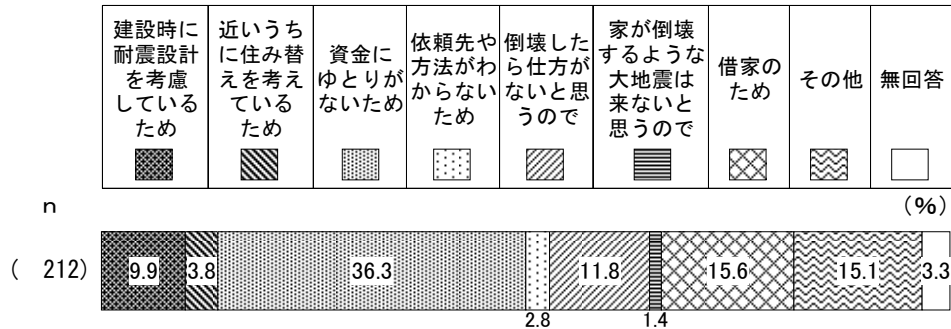
(5) 耐震補強工事をしていない理由

◇「資金にゆとりがないため」が3割半ば

(問 23-1 で、「していない」と回答した方に)

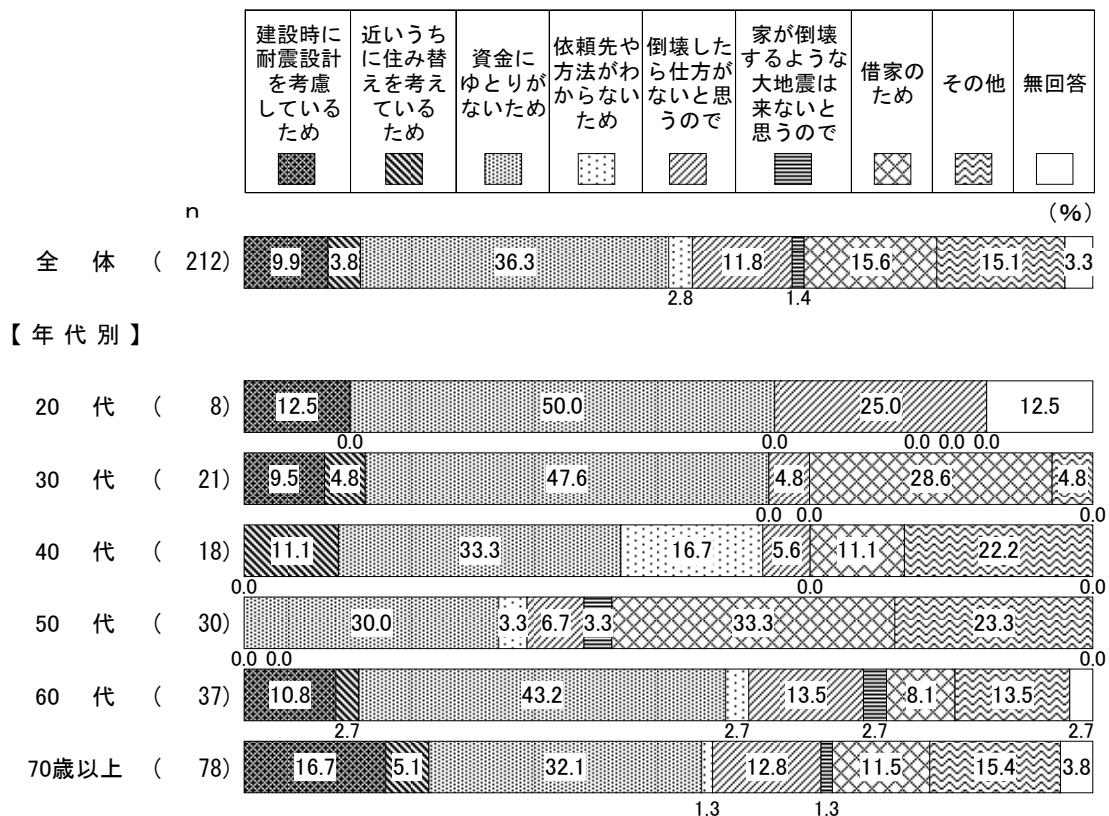
問 23-2 耐震補強工事をしていない理由は何ですか。(○は1つだけ)

図 12-5-1



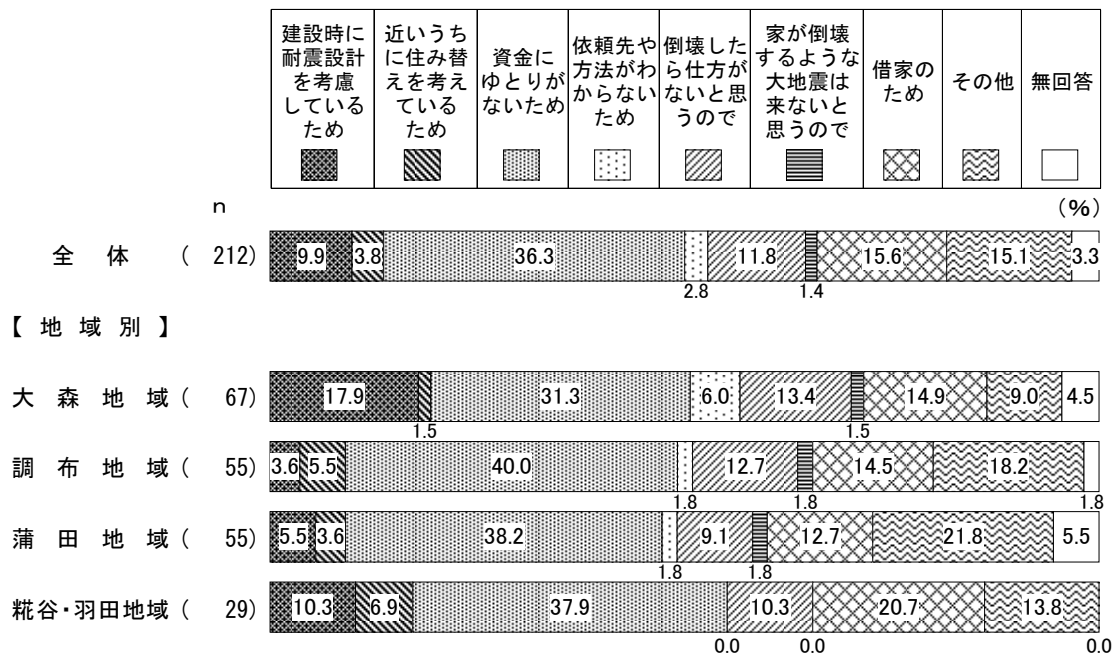
耐震補強工事を「していない」と答えた人 (212 人) に、その理由を聞いたところ、「資金にゆとりがないため」(36.3%) が3割半ばで最も高く、次いで「借家のため」(15.6%)、「倒壊したら仕方がないと思うので」(11.8%)、「建設時に耐震設計を考慮しているため」(9.9%) などの順になっている。(図 12-5-1)

図 12-5-2 耐震補強工事をしていない理由一年代別



年代別でみると、「借家のため」は50代 (33.3%) で3割を超え高くなっている。(図 12-5-2)

図 12-5-3 耐震補強工事をしていない理由—地域別



地域別で見ると、「資金にゆとりがないため」は調布地域（40.0%）で4割、「建設時に耐震設計を考慮しているため」は大森地域（17.9%）で2割近くと高くなっている。（図12-5-3）

(6) 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度

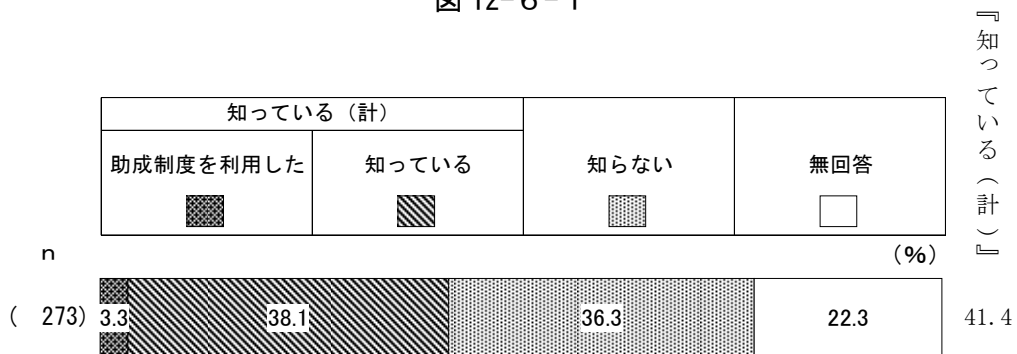
◇「助成制度を利用した」と「知っている」を合わせた『知っている（計）』が4割を超える

(問 23 で、「昭和 56 年 5 月以前」と回答した方に)

問 23-3 大田区では災害に強いまちづくりを進めるため、昭和 56 年 5 月以前の耐震基準で建てられた住宅やマンションの耐震化を推進しています。耐震診断や耐震改修工事を行う際に助成制度を設けていますが、あなたは、この制度をご存知ですか。

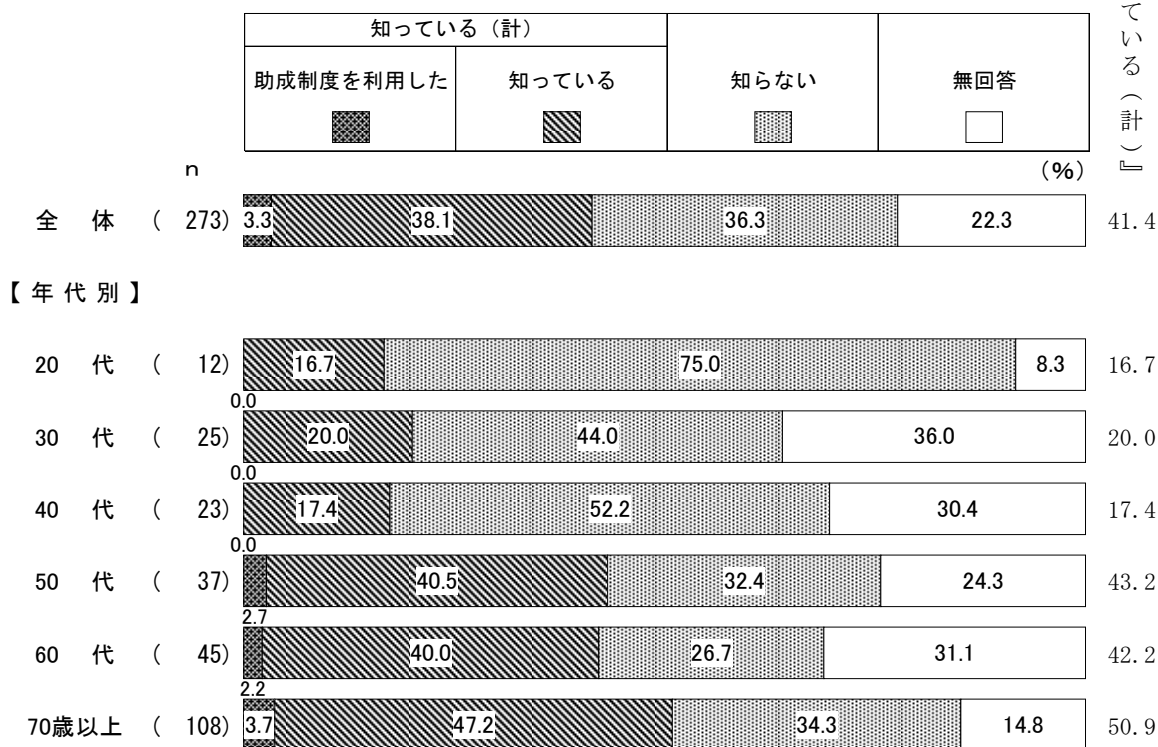
(○は1つだけ)

図 12-6-1



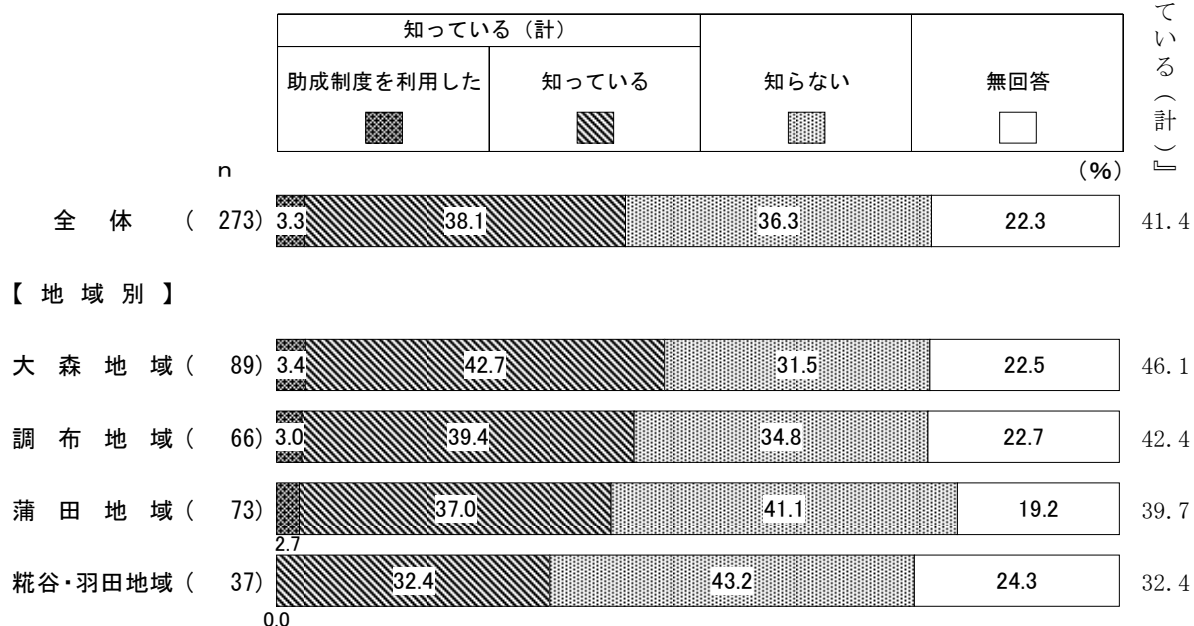
「昭和 56 年 5 月以前」に建てられた建物に住んでいると答えた人 (273 人) に、耐震診断や耐震改修工事を行う際に助成制度を設けていることを知っているか聞いたところ、「助成制度を利用した」(3.3%)と「知っている」(38.1%)を合わせた『知っている(計)』(41.4%)は4割を超えている。一方、「知らない」(36.3%)は3割半ばとなっている。(図 12-6-1)

図 12-6-2 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度一年代別



年代別でみると、『知っている (計)』は70歳以上 (50.9%) で約5割、50代 (43.2%) と60代 (42.2%) で4割を超え高くなっている。(図12-6-2)

図 12-6-3 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度一地域別



地域別でみると、『知っている (計)』は大森地域 (46.1%) で4割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は糀谷・羽田地域 (43.2%) と蒲田地域 (41.1%) で4割を超え高くなっている。

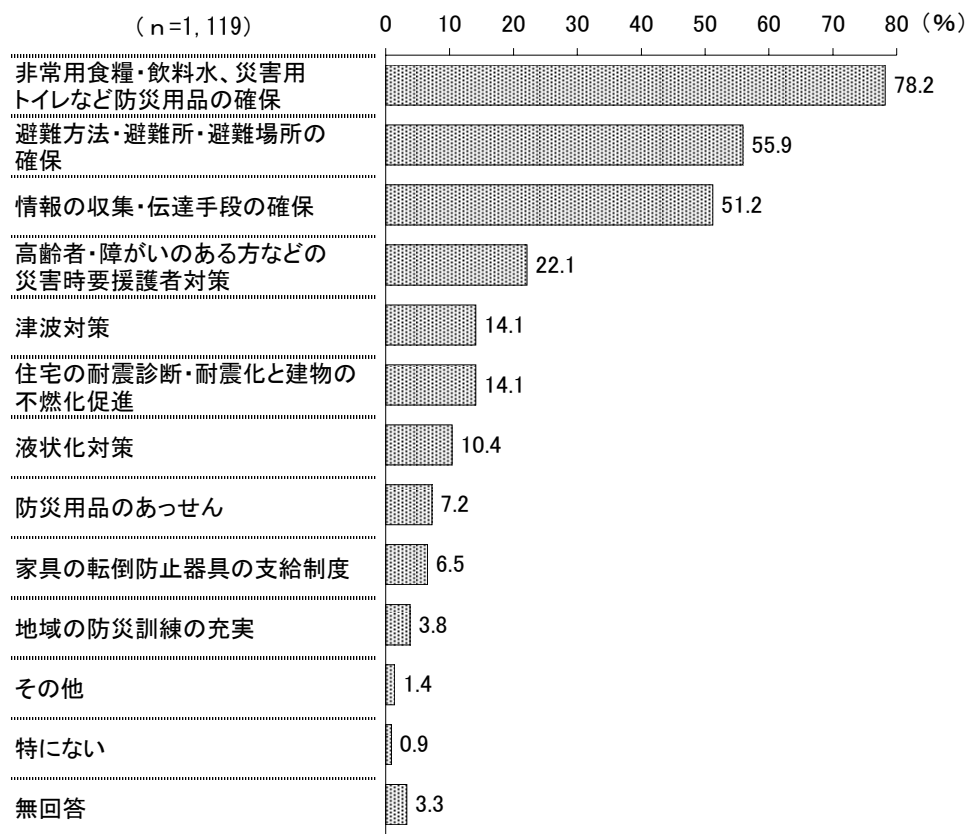
(図12-6-3)

(7) 力を入れてほしい防災対策

◇「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」が8割近く

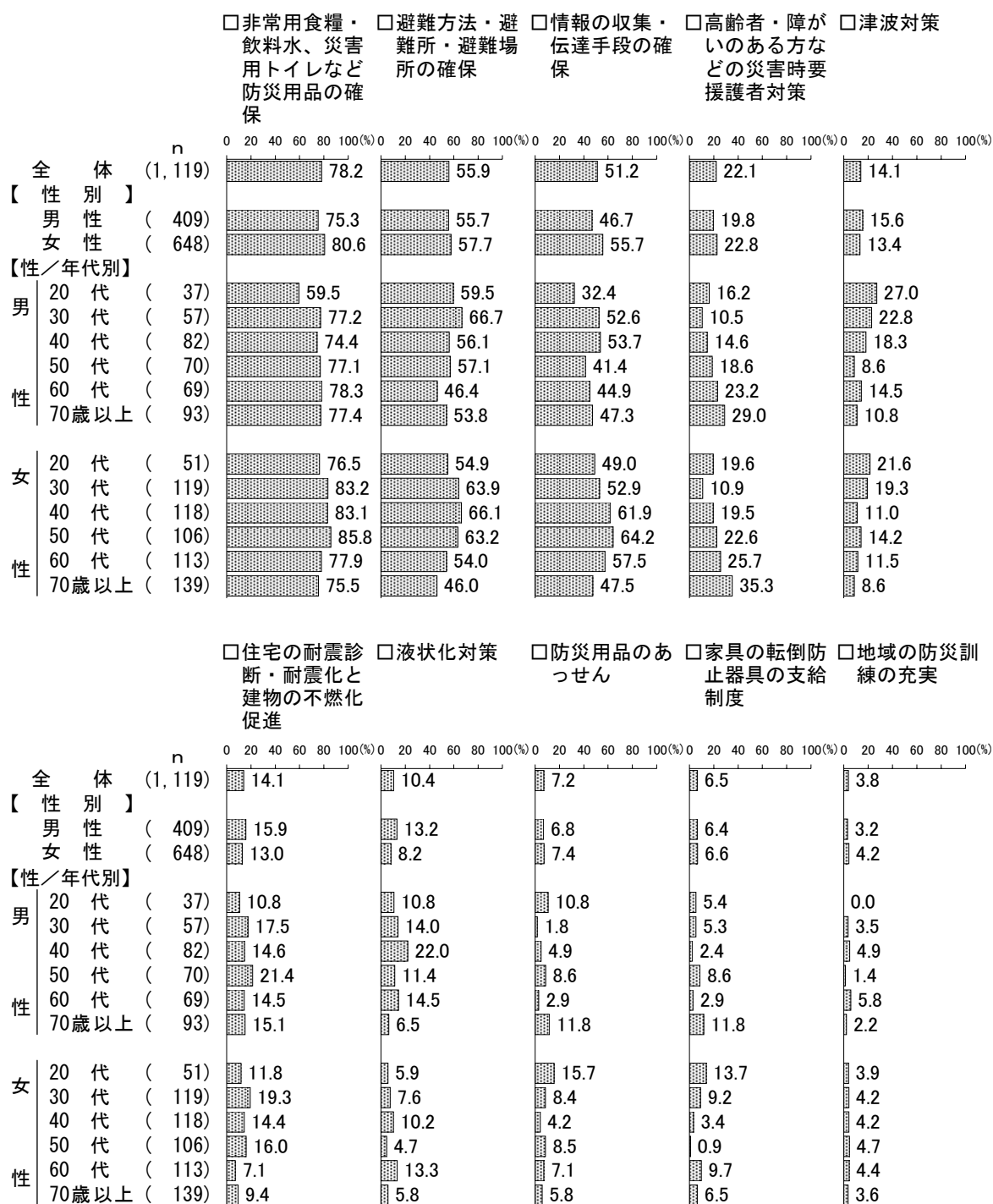
問 24 あなたが、大地震の際の防災対策として、大田区に特に力を入れてほしいことは何ですか。(〇は3つまで)

図 12-7-1



大地震の際の防災対策として、特に力を入れてほしいことを聞いたところ、「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」(78.2%)が8割近くで最も高く、次いで「避難方法・避難所・避難場所の確保」(55.9%)、「情報の収集・伝達手段の確保」(51.2%)、「高齢者・障がいのある方などの災害時要援護者対策」(22.1%)などの順になっている。(図 12-7-1)

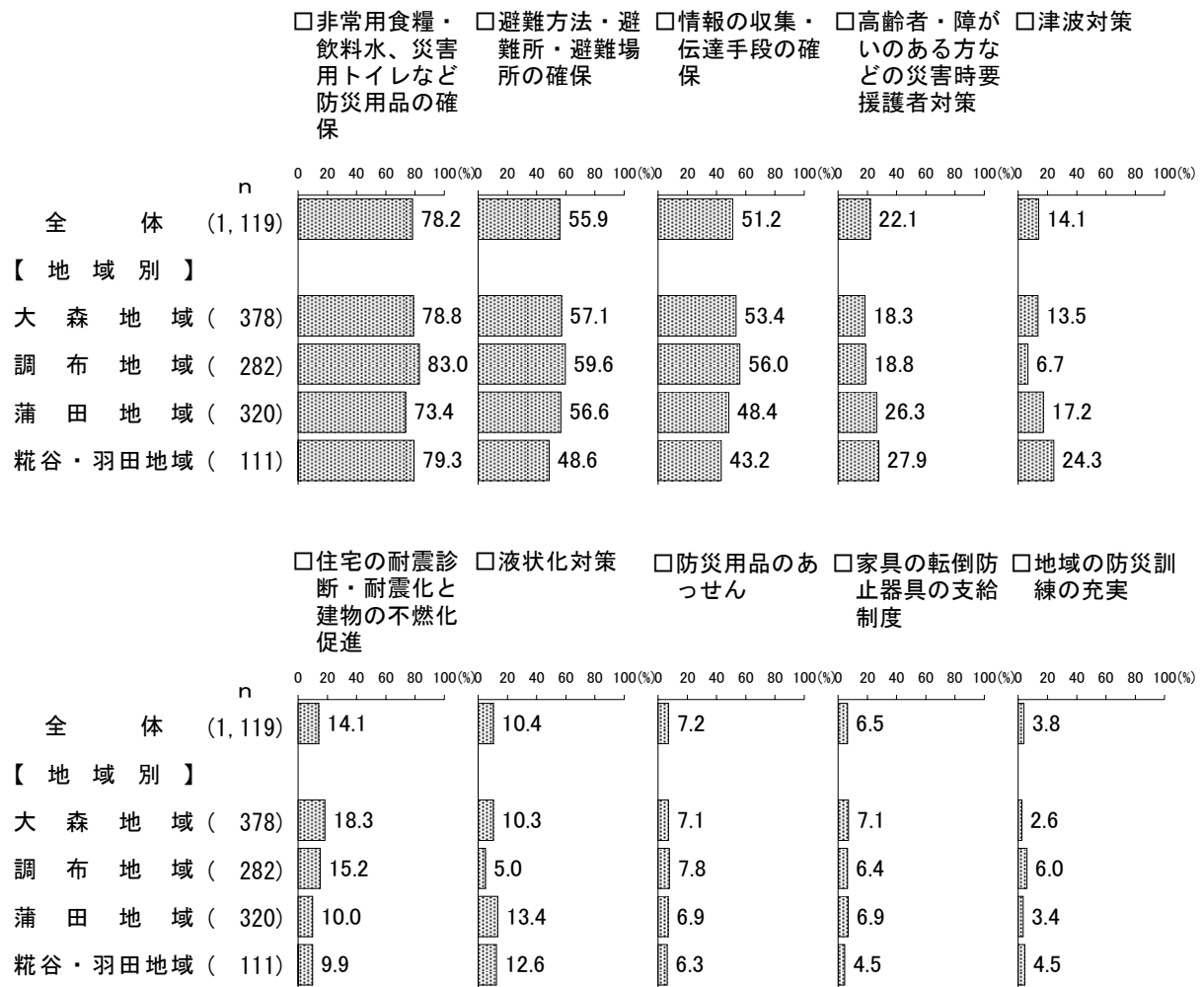
図 12-7-2 力を入れてほしい防災対策－性／年代別



性別で見ると、「情報の収集・伝達手段の確保」は女性（55.7%）が男性（46.7%）より9.0ポイント高くなっている。一方、「液状化対策」は男性（13.2%）が女性（8.2%）より5.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」は女性の30代（83.2%）、40代（83.1%）、50代（85.8%）で8割台と高くなっている。また、「避難方法・避難所・避難場所の確保」は男性30代（66.7%）と女性の30代（63.9%）、40代（66.1%）、50代（63.2%）で6割台と高くなっている。（図12-7-2）

図 12-7-3 力を入れてほしい防災対策—地域別



地域別でみると、「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」は調布地域（83.0%）で8割を超え、「避難方法・避難所・避難場所の確保」は調布地域（59.6%）で6割と高くなっている。（図12-7-3）

(8) 飼育している動物

◇「飼育している」は2割を超える

問 25 あなたの家庭では、どのような動物を飼育していますか。(〇はいくつでも)

図 12-8-1 動物の飼育状況

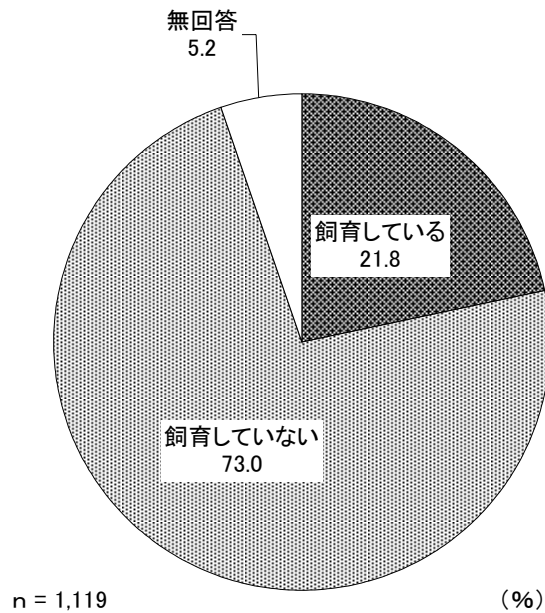
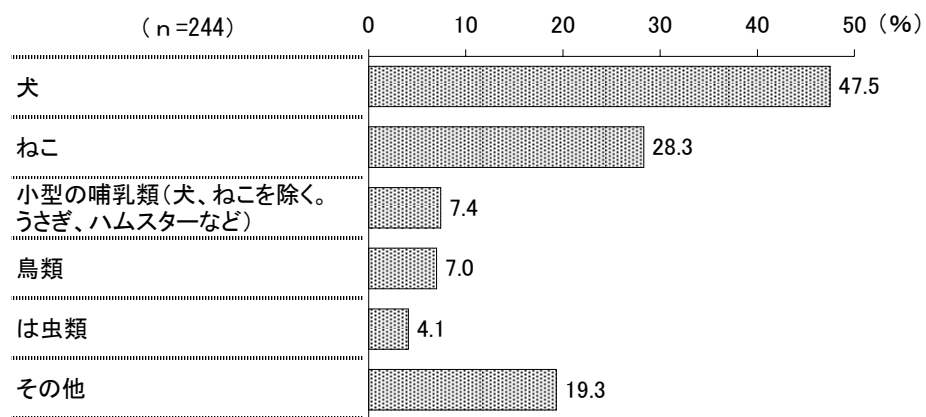


図 12-8-2 飼育している動物

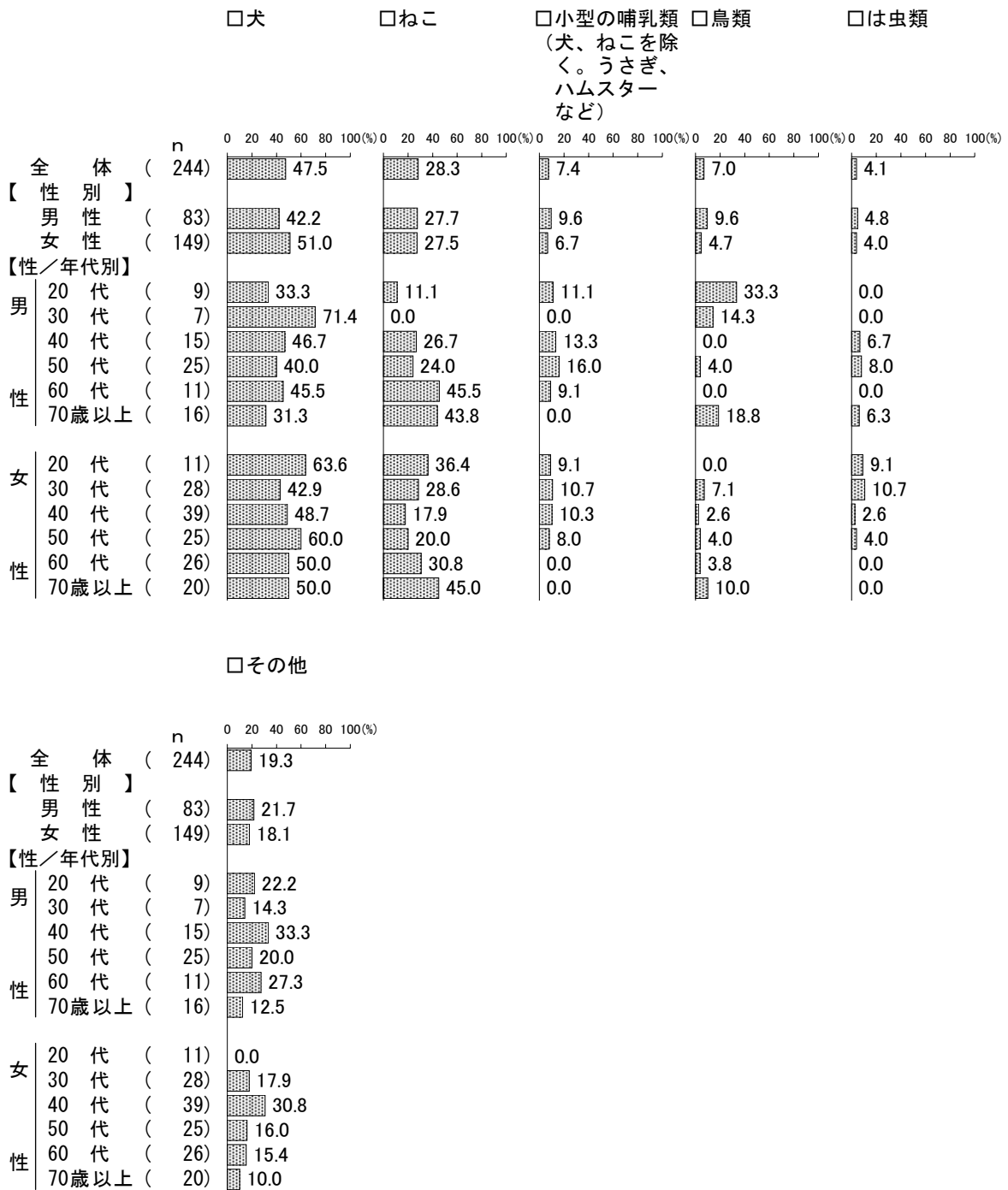


動物の飼育状況を聞いたところ、「飼育している」(21.8%)は2割を超え、「飼育していない」(73.0%)が7割を超えている。(図12-8-1)

「飼育している」人(244人)の飼育している動物をみると、「犬」(47.5%)が5割近くと最も高く、次いで「ねこ」(28.3%)、「小型の哺乳類(犬、ねこを除く。うさぎ、ハムスターなど)」(7.4%)、「鳥類」(7.0%)などの順になっている。

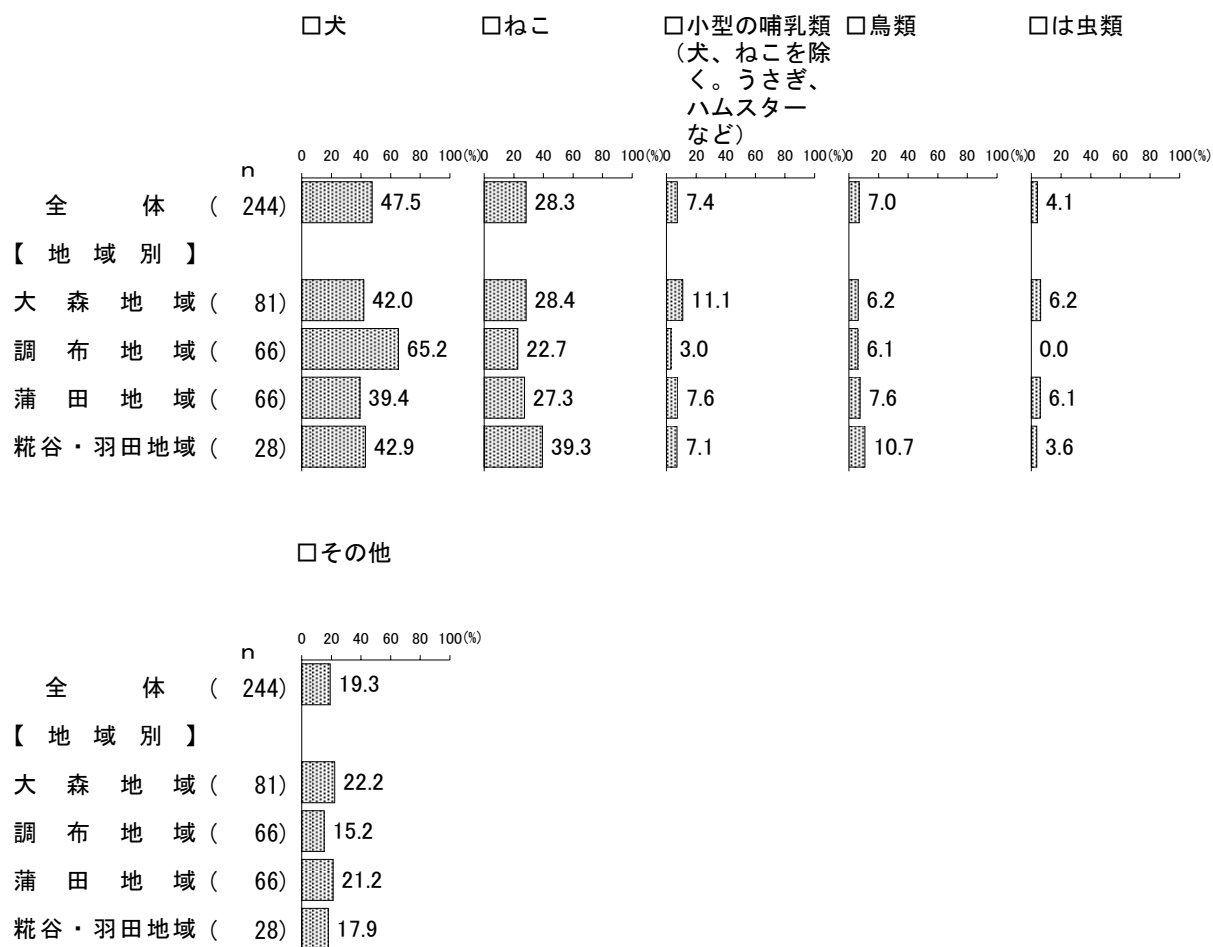
「その他」への回答として、「金魚」、「カメ」などがあげられている。(図12-8-2)

図 12-8-3 飼育している動物—性／年代別



性別でみると、「犬」は女性（51.0%）が男性（42.2%）より8.8ポイント高くなっている。性／年代別でみると、「犬」は男性30代（71.4%）、女性の20代（63.6%）と50代（60.0%）で6割以上と高くなっている。また、「ねこ」は男性の60代（45.5%）と70歳以上（43.8%）、女性70歳以上（45.0%）で4割台と高くなっている。（図12-8-3）

図 12-8-4 飼育している動物—地域別



地域別でみると、「犬」は調布地域（65.2%）で6割半ば、「ねこ」は糞谷・羽田地域（39.3%）で約4割と高くなっている。（図12-8-4）

(9) ペットと避難するための準備

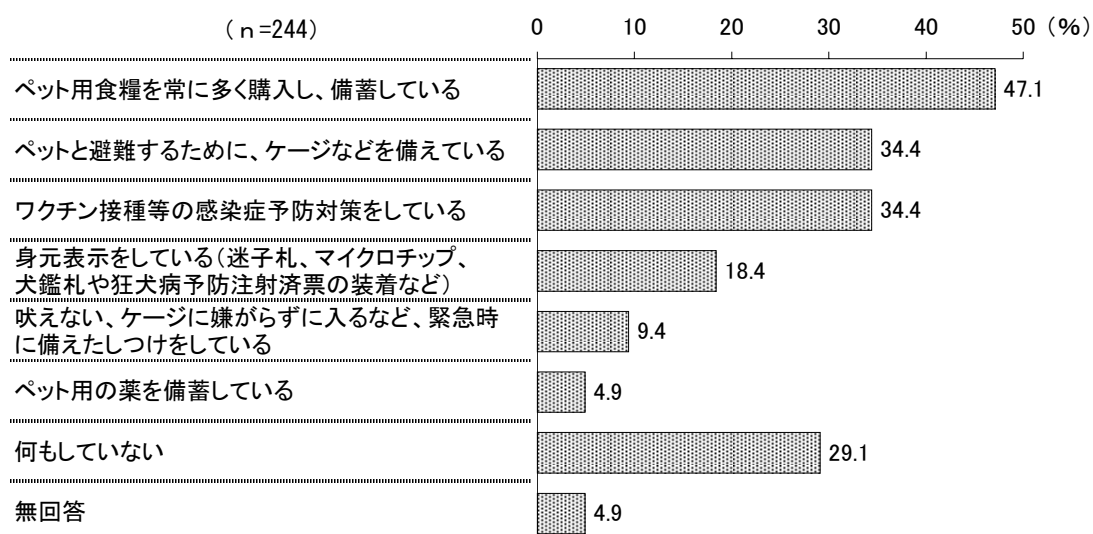
◇「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」が5割近く

(問 25 で、「動物を飼育している」と回答した方に)

問 25-1 東日本大震災の被災地では、自宅に残したペットが餓死をしたり、ペットと車の中で過ごしていた飼主がエコノミー症候群で死亡するなどの事例が報告されています。ペットと避難するための準備として、どのような取り組みをしていますか。

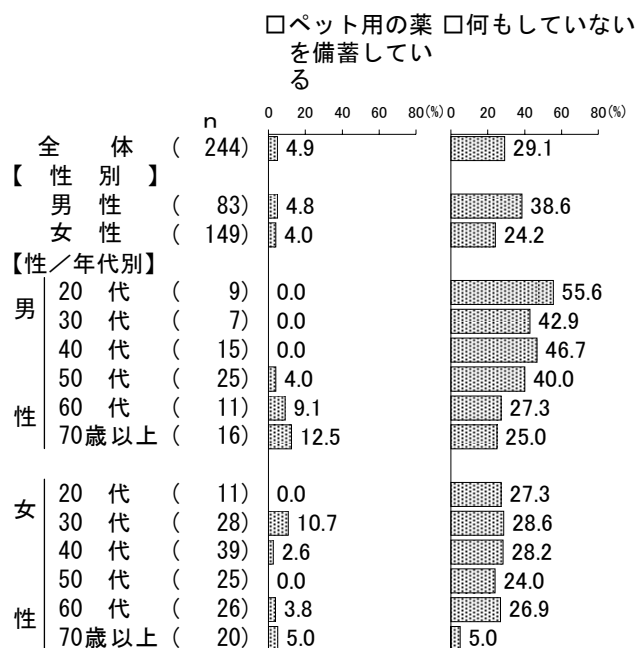
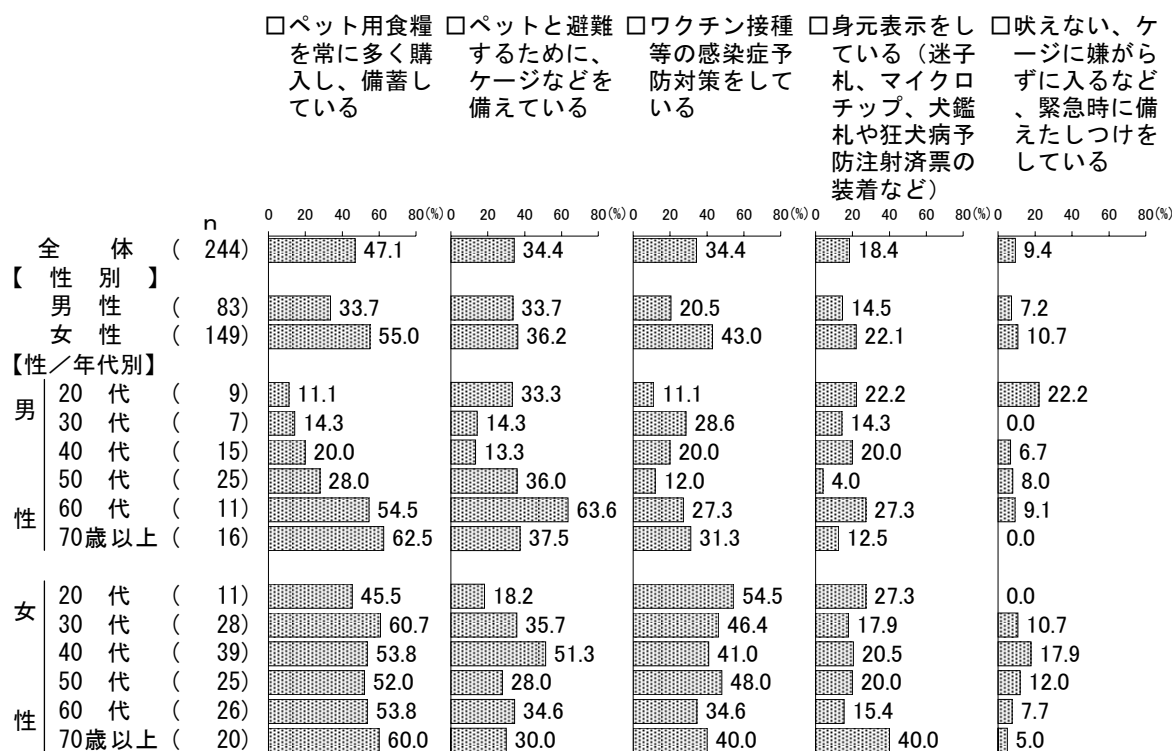
(○はいくつでも)

図 12-9-1



「動物を飼育している」と答えた人(244人)に、ペットと避難するための準備として、どのような取り組みをしているか聞いたところ、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」(47.1%)が5割近くで最も高く、次いで「ペットと避難するために、ケージなどを備えている」と「ワクチン接種等の感染症予防対策をしている」(ともに34.4%)、「身元表示をしている(迷子札、マイクロチップ、犬鑑札や狂犬病予防注射済票の装着など)」(18.4%)、「吠えない、ケージに嫌がらずに入るなど、緊急時に備えたしつけをしている」(9.4%)などの順になっている。一方、「何もしていない」(29.1%)は約3割となっている。(図12-9-1)

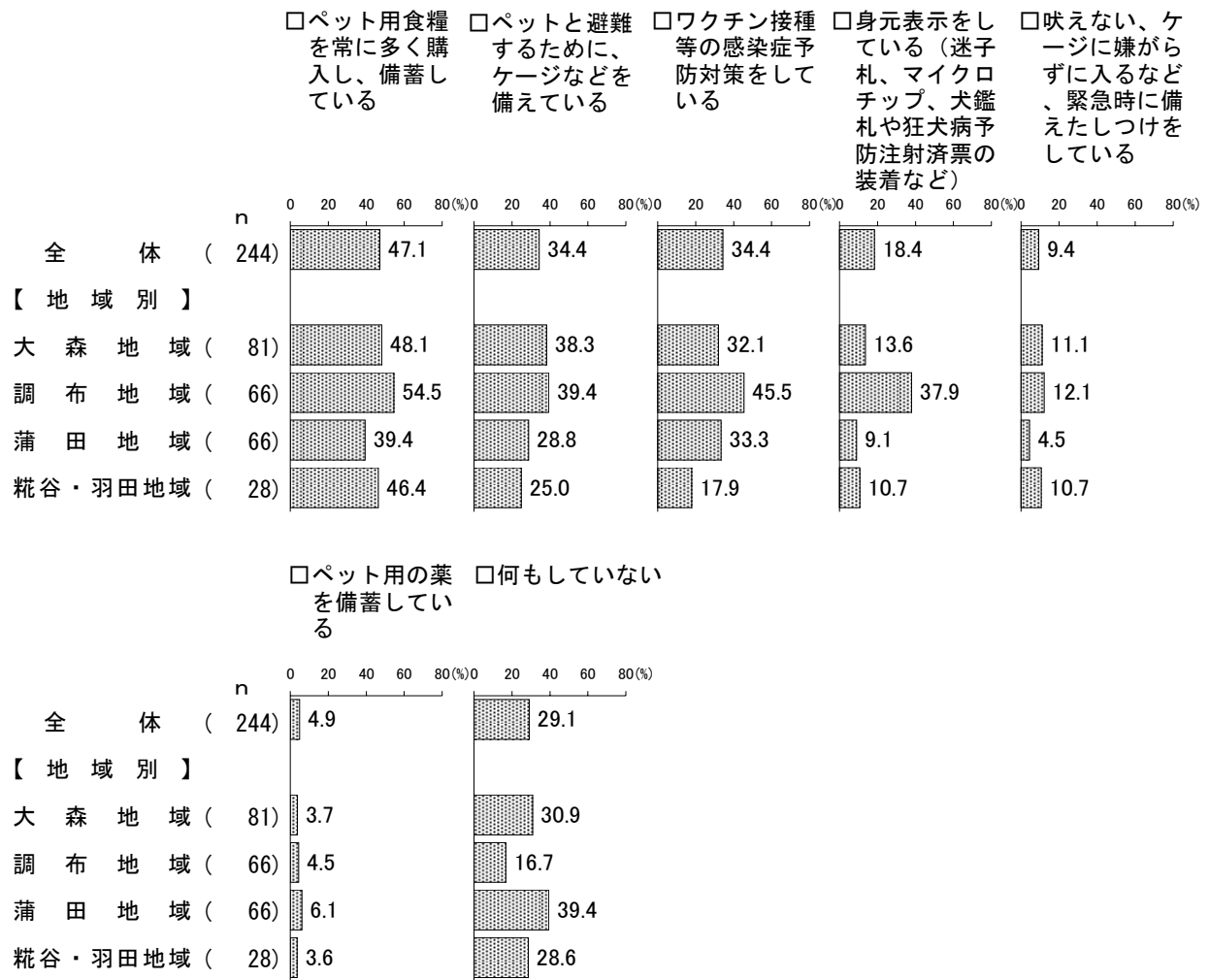
図 12-9-2 ペットと避難するための準備－性／年代別



性別でみると、「ワクチン接種等の感染症予防対策をしている」は女性（43.0%）が男性（20.5%）より22.5ポイント高く、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」は女性（55.0%）が男性（33.7%）より21.3ポイント高くなっている。一方、「何もしていない」は男性（38.6%）が女性（24.2%）より14.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」は男性では年代が高くなるほど割合が高くなっている。また、「ペットと避難するために、ケージなどを備えている」は男性60代（63.6%）と女性40代（51.3%）で5割以上と高くなっている。（図12-9-2）

図 12-9-3 ペットと避難するための準備—地域別



地域別で見ると、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」は調布地域（54.5%）で5割半ば、「ワクチン接種等の感染症予防対策をしている」は調布地域（45.5%）で4割半ばと高くなっている。一方、「何もしていない」は蒲田地域（39.4%）で約4割と高くなっている。

(図12-9-3)